

## とんでもない、川内原発の工事計画 規制委「いいかげんな計画、つきあえない」



▲あわてて工事計画「補正書」を出した九電



▲5月6日には再稼働仮処分の即時抗告を行う

再稼働の先頭バッターに指名された九電の川内原発——。7月頭に再稼働と九電は言っていました。その準備の実態は、同じ「原子カムラ」の規制委も怒りだすありさまです。

### ●混乱、対立、いい加減な「原子カムラ」

九電が1番に指名された理由は、九電は比較的ちいさな会社だから規制委の言うことを聞くということ。また原発推進、「争点かくし」の伊藤知事と岩切市長がいる、ということでした。しかし今、それが裏目にでています。

4月23日に九電は、再稼働を半月ずらず計画表を出し直しました。問題になったのは、それに添付された1号機「使用前検査」の計画。

3月30日に始まった使用前検査は、150項目以上に対し、まだ10項目程度の進捗。ところが今後の計画は、空欄が多い一方、例えば6月2日には1日で20項目をやる。1つひとつ

を10分で済ますというのは、見学ツアー並み。しかもそれには、火山噴火、竜巻、火災など、致命的な項目も含むというのに——。

### ●審査やり直し、「同意」撤回、説明会やれ

「検査員を引き上げる」という規制委の脅しに対し、九電はあわてて2号機の工事計画の補正書を出したりしています。しかしそれも、1号機の計画と似たりよったりのものでしょう。

原子カムラは「再稼働ありき」で突っ走ってきました。原子カムラのなれあい関係があったからです。そのなれあい関係のなかでも、規制委が怒りだすような九電のいい加減さ。

規制委員会は審査をやり直すべきです。県や市は、再稼働「同意」を撤回すべきです。そして九電は、改めて30キロ圏内の全住民に対し、「説明会」を主催すべきです。

原子カムラに命を預けるのはやめましょう。